日本原子力学会　標準委員会　リスク専門部会　PRA 品質確保分科会
第 27 回会合議事録

日時：2019 年 3 月 15 日（金）10:00～12:00
場所：電力中央研究所 大手町地区　大手町ビル 7 階 734 会議室
出席者（敬称略）
　委員：桐本主査(電中研)，野村幹事(関電)，糸井(東京大)，喜多(東電)，
　　倉本(NEL)，曽根田(日立 GE)，田中(MHI)，玉木(中電)，
　　日高(テプシス)，村田(JANSI)，吉田（JAEA）　11 名出席
　代理委員：櫻井(原電/杉原委員候補代理)　1 名出席
　常時参加者：山本候補(原電エンジ)、藤崎候補(関電)　2 名出席
　傍聴者：1 名

配付資料：
　RK4SC27-1：第 26 回 PRA 品質確保分科会議事録案
　RK4SC27-2：人事について
　RK4SC27-3-1：標準委員会を踏まえた今後の品質確保基準の進め方について
　RK4SC27-3-2：品質確保基準の構成イメージ
　RK4SC27-3-3：品質確保基準　意見募集コメント集約表
　RK4SC27-4-1：共通用語定義標準の修正について
　RK4SC27-4-2：共通用語定義標準　最終版（日本語版）
　RK4SC27-4-3：共通用語定義標準　最終版（英訳版）
　RK4SC27-4-4：共通用語定義標準　標準文案（12/5 標準委員会中間報告版）
　RK4SC27-5：共通用語定義標準　英訳版の扱いについて
　RK4SC27-6：IRIDM 標準 標準原案に関する決議投票にて受け付けた意見への回答
　RK4SC27-7：JCNRM 共通用語定義標準の技術交換開始について
　RK4SC27-8-1：リスク専門部会から標準委員会への報告時の資料について
　RK4SC27-8-2：標準委員会，リスク専門部会，分科会における標準策定に関する審議の流れの概要と留意事項
　RK4SC27-9：分科会検討スケジュール案
　RK4SC27-参考 1：分科会名簿
　RK4SC27-参考 2：第 75 回標準委員会　議事メモ
　RK4SC27-参考 3：第 76 回標準委員会　議事メモ（速報抜粋）
　RK4SC27-参考 4：第 48 回リスク専門部会　議事メモ（抜粋）

議事：
1．定足数の確認
　委員 14 名中 12 名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

2．前回議事録の確認（RK4SC27-1）
　RK4SC27-1 に基づき，第 26 回分科会の内容確認が行われた。委員からコメント等がなく，正式版として了承された。

3．人事について（RK4SC27-2）
　浦野委員が委員を退任され、新たに杉原 一洋 氏委員候補の選任が承認された。
　野崎常時参加者の登録解除が報告され、新たに山本 龍大氏、藤崎 恭史 氏の常時参加者

への登録が承認された。

4. 共通用語定義標準の修正報告（RK4SC27-4-1～27-4-3）

標記について野村幹事、藤崎常時参加者より、12 月の標準委員会で制定された共通用語定義標準の軽微修正を標準委員会まで付議し、承認されたことが報告された。

5. 共通用語定義標準の英訳版の扱いについて（RK4SC27-5）

標記につき上記資料に基づき野村幹事、藤崎常時参加者から、共通用語定義標準の英訳版を技術レポートとして書籍発行することが報告された。

主な質疑は以下の通り。

Ｃ：補足すると、今回は発行より前に JCNRM へ標準データを提供することが了承されたことが重要である。また、標準委員会では著作権には最新の注意を払うようコメントを受けている。

Ｑ：これは今後英訳していく標準でも同様か？

Ａ：L1PRA と共通用語はこのような扱いになるだろうと思っている。

Ｑ：英訳した標準は技術レポートなのか。標準との違いは何か？

Ａ：標準委員会として審議したのは、日本語の標準の記載であり、日本語の標準が正である。英訳した標準はあくまで、日本語の標準を翻訳しただけである。もし、日本語の標準の内容と英訳標準の内容に齟齬が出ている場合は、日本語の内容が正しいという扱いになる。

Ｑ：英訳版はピアレビューに用いられると思うが、海外のレビュアーは技術レポートである英訳版を見てレビューを行っても問題はないのか？

Ａ：英訳版は標準である日本語版を直訳したものであり、標準に則したものであるため、対応できると考えている。ただし、日本語の標準の記載内容と齟齬が出ている箇所がある場合は、日本語の標準が正しいという点に注意が必要である。

6. IRIDM 標準の PRA 関係附属書　標準委員会他コメント対応（RK4SC27-6）

標記につき上記資料に基づき倉本委員から、IRIDM 標準の状況が報告された。

主な議論は以下のとおり。

Ｑ：今後のプロセスは？

Ａ：両専門部会三役の了承が得られ次第、各専門部会委員にメールで確認を取った後、標準委員会でメール審議をかける予定である。

Ｃ：新旧比較表の①～③の表現だが、この記載は発行後の誤記対応のみ使うべきという意見が委員会で出てきている。審議の際は記載を控えた方がいいかもしれない。

7. JCNRM 共通用語定義の技術交換開始について（RK4SC27-7）

標記につき上記資料に基づき野村幹事、藤崎常時参加者から、共通用語定義標準の英訳版について、JCNRM との技術交換の準備状況が報告された。報告の結果、コメントを反映した上で、JCNRM へ資料を提供することとなった。

主な議論は以下のとおり。

Ｑ：今回の技術交換について、米国に何を期待しているか、目的を明確にした上で提供するタイミングや方法をもっと分科会で議論したほうが良いのではないか。

Ａ：目的は、互いの相違を理解した上で技術交換を行い、必要に応じて標準にフィードバックすることである。意見交換のニーズはあるので、まずは比較表を送付することとする。また、こちらから確認したいことがあれば、追って質問するし、先方からの質問があれば答えることとしたい。委員の皆様から JCNRM 側へ聞きたい事項があれば要望して欲しい。JCNRM 側から質問などがあれば分科会でも議論していきたい。

Ｃ：頁左下のコピーライトだが、 ASME の標準文に掛かっているので、AESJ 標準側に記

載を移すこと。
Ｃ：ASME タイトルの年号が 2008 になっているので、RA-Sb-2013 に訂正すること。

8. リスク専門部会から標準委員会への報告時の資料及び標準委員会、リスク専門部会、分科会における標準策定に関する審議の流れの概要と留意事項について（RK4SC27-8-1～27-8-2）

標記につき野村幹事、藤崎常時参加者から、リスク専門部会の資料を用いて、標準委員会へ報告する際の留意事項について周知があった。

9. 品質確保標準の標準委員会結果及びリスク専門部会再検討結果（RK4SC27-3-1～27-3-3, 参考 2,4）

標記につき上記資料に基づき野村幹事、藤崎常時参加者より説明があり、品質確保標準の今後の進め方を議論した。

主な質疑は以下のとおり。

Ｑ： 標準委員会のコメントは、標準改定の趣意書で了解を得ている内容と乖離していないか。
Ａ：今回の改定は、IRIDM 標準の策定に合わせて、リスク情報活用に必要な品質を確保するために改定するとしていたが、具体的な改定内容が分かりづらくて、このようなコメントを招いている面もあろうかと思う。
Ｑ： 途中過程におけるレビューを追記したのはどういう意図か？
Ａ：これは意見募集時のコメントでもあるが、NUREG-2213 に SSHAC や断層変位に不確かさの考え方を参加型レビューという形でレビューすることが記載されている。伊方でも断層変位のレビューを分類分けに応じて実施している。これを踏まえて断層変位 PRA 標準案では参加型レビューに関する記載を検討しているので、品質確保標準にも追記してほしい、という意図である。
Ｑ：リスク評価の品質レベルはレベル 1PRA でいうカテゴリーⅠやⅡのことを言っているのか。
Ａ：品質レベルとは、PRA 実施に対する品質要求の度合いを示しており、Capability とは異なるものである。
Ｑ：PRA で品質レベルの設定をわざわざ要求するのは過剰と思うのだが。
Ａ：品質レベルの要求は、リスク評価目的の 明確化に応じて品質レベルを分けなければならないことを考えると必要であると思う。
Ｃ：品質レベルもそうだが、あまり詳細な要求をすると標準ではなく、指針の改定として見なされかねないため、注意が必要。
Ｑ：「品質レベル」という言葉はあまり馴染まないのではないか。米国では「品質(quality)」という言葉を用いず、別の言葉（Acceptability for risk application）を用いている。
Ａ：「品質レベル」という言葉については議論が必要だと思っている。
Ｃ：今回いろんな論点が見えたが、他にコメント・ご意見があればメールにて連絡願う。また、RK4SC27-3-3 についても今回説明できなかったが、一度目を通していただき、コメント・ご意見があればメールにて連絡願う。

10. 次回分科会日程

次回分科会の開催については， 4 月 22 日（月）午後、4 月 23 日（火）午前・午後を候補として調整することとなった。

以　上